

福音の園だより

【第十六号 二〇〇六年四月七日発行】

350-0016 埼玉県川越市木野目一八七八番地一

特定非営利活動法人 福音の園・埼玉事務局

TEL 049-230-1111
FAX 049-230-1112

ご家族の声

お母さん、九六才おめでとう！

「Tおばあちゃん」はつきりした日本語で日中混血のひ孫、Kは写真を指差した。最近は一年に数回しか会う機会がない。それでも「顔」と「T」という名前は三才になつたばかりのひ孫の頭と心に刻まれていた。周囲にいたオトナ達はびっくりしながらも、新しい世代に確かに何かが引き継がれつつあることに感動させられた。

お母さんと同じく私も娘も二十才を過ぎた晩婚だった。でも、着実に家族の歴史は継がれている。私も六十五才になりました。久しぶりに神田駿河台の浜田病院に行ってみました。お母さんが三十一才を目前にして初産で私を世に出してくれた病院です。百年前に創立された病院は今でも落ち着いたたずまいでした。自分が生まれた「場所」が当時のまま存在していること、私は幸せです。逆子だったため、分娩時は仮死状態で当時の一流の治療があつたればこそ、「S」は生きていると何回も聞かされました。言われた通り生きています。お母さんの思い通りの息子に育っているでしょうか。お母さんは「反骨」精神の女性でした。「人間」として生きた女性でした。もっと、簡単に生き抜けた筈なのに妥協もせず、媚もつりませんでした。常に「自分が実存していたのです。『男女共同参画社会』を体现し続けた女性と私は誇りに思っています。

先月、お母さんは介護認定で前年の「要介護4」より「要介護3」に判定されました。少し少しことですが戻つたのです。お母さん、同じ故郷、仙台の荒川静香さんと同じ金メダルだと思って下さい。「福音の園」の皆様のひたむきな愛情とご努力をお母さんは心の奥深くでしつかりと受けとめているのでしよう。「学問」が人を生かすと教えてくれたお母さん、ありがとうございます。

（S・S）

けた筈なのに妥協もせず、媚もつりませんでした。常に「自分が実存していたのです。『男女共同参画社会』を体现し続けた女性と私は誇りに思っています。

「要介護3」に判定されました。少し少しことですが戻つたのです。お母さん、同じ故郷、仙台の荒川静香さんと同じ金メダルだと思って下さい。「福音の園」の皆様のひたむきな愛情とご努力をお母さんは心の奥深くでしつかりと受けとめているのでしよう。「学問」が人を生かすと教えてくれたお母さん、ありがとうございます。

スタッフ動向

「I」からは北海道滝川市ハローワークです

グループホーム福音の園・川越 ホーム長 杉澤 卓巳

求人応募者照会電話が入った時は、「瞬耳を疑い、「北海道の滝川市ですか?」と問い合わせてしまつた。各階ケアマネージャーと共に面接して採用内定。二月一日より二階看護職として勤務開始。これで二〇〇四年十月一日開園時より履行してきた「各階に看護師配置」を継続できた。

後日談。ハローワークへ出向き、求人票を作成していたら隣席から声を掛けられた。市内のある老人施設の施設長さんだった。用件を告げると、「うちも看護師募集を出しているがなかなか来てくれない」と返答下さった。ハローワーク手続き後、わずかの期間で、しかも北海道から転居して働いて下さる看護師さん。これはもう人知の及ばない、支援者の方々が折つて下さる「福音・祈りの世界」び出来事であると認めざるを得ない。

福音の園は私の家、心の休憩所

私は一年半という時をホーム長様、職員様、利用者様と過ごさせて頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。勤め始めた当初は初めて経験することばかりで戸惑うこともありました。苦手の料理も煮物が作れるようになりました。福音の園は私の家であり、心の休憩所です。ですがこの度、悩み悩んだ末、三月一日、特別養護老人ホーム「練馬キングス・ガーデン」に入職しました。福音の園での経験、そして新たなる発見が、自分に足りないものを気付かせてくれました。それをキングス・ガーデンでしつかりと学び、更なる成長に繋げたいと思います。私を暖かい心で支えて頂き、本当にありがとうございました。（介護職 A・S）

私は一年半という時をホーム長様、職員様、利用者様と過ごさせて頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。勤め始めた当初は初めて経験することばかりで戸惑うこともありました。苦手の料理も煮物が作れるようになりました。福音の園は私の家であり、心の休憩所です。ですがこの度、悩み悩んだ末、三月一日、特別養護老人ホーム「練馬キングス・ガーデン」に入職しました。福音の園での経験、そして新たなる発見が、自分に足りないものを気付かせてくれました。それをキングス・ガーデンでしつかりと学び、更なる成長に繋げたいと思います。私を暖かい心で支えて頂き、本当にありがとうございました。（介護職 A・S）

笑顔と唄と手拍子と

ボランティア 民謡半玉会 K・U

皆様と一緒に、なじみの民謡、故郷の唄、盆踊り唄を手拍子、踊りをまじえて共に楽しんでおります。唄、音楽は年令、国を越え、心と心が通じ合えるものと思つております。ホームのあつたかい雰囲気の中での明るい笑顔の皆様と過ごす一時間は、昔の楽しい大家族を想い出します。

私達は、唄い手のR・Aさん、尺八の先生、I・Aさん、三味線のS・Sさん、おなじみのT・Kさん、Uの5名です。これからも「民謡と共に」楽しい小旅行に皆様と一緒に出掛けて行きましょう。

（川越市小中居）

御 礼 ジヤガイモ・玉ねぎ

U・T様（北海道・共和町）